

リベラルサイエンス教育開発FD  
「質問を生み出す自然科学系実験のデザイン～ハテナソン授業の設計と実践～」  
(文部科学省教育関係共同利用拠点事業)

関係各位

九州大学 基幹教育院 次世代型大学教育開発センター

このたび、以下のように、リベラルサイエンス教育開発FD「質問を生み出す自然科学系実験のデザイン～ハテナソン授業の設計と実践～」を開催いたしますので、ご案内いたします。

**【趣旨】**

高校までの受験勉強と異なり、大学や社会では、自ら問いを立て、その問いの答えを追究する、自立的な学びが求められます。これは「問われる立場」から「問う立場」への転換を意味しています。次世代型大学教育開発拠点 リベラルサイエンス教育開発モジュールでも、科学の基礎的な観点や共通する方法論を基盤とした授業開発を行い、自立的な学びができる人材の育成を目指しています。

ただし、自ら問いを立て、自立的に学べる人材の育成は容易なことではなく、授業にその要素を担わせる場合はそれ相応の手法や授業デザインが必要になります。

そこで今回は、質問づくり手法を中核とする「質問づくりの場」を取り入れた授業(ハテナソン授業)の開発・実践をされている佐藤賢一先生をお招きし、その手法や実践例について、体験ワークショップを交えて学べる機会を設けました。また、「質問づくりの場」を取り入れた授業のデザインやその授業におけるファシリテーションについても学び合い、参加者それぞれがハテナソン授業を実践できるようになることを目指します。

授業に質問づくり手法を導入したい教員の皆さま、ハテナソン授業にご関心のある皆さまのご参加をお待ちしております。

**【日時】** 平成30年6月22日(金) 13:00～17:00

**【会場】** 九州大学 伊都キャンパス センター1号館4階1409号室

<http://www.kyushu-u.ac.jp/f/32758/2018ito.pdf> ※キャンパスマップ65番です。

**【定員】** 30名(先着順)

**【参加費】** 無料

**【対象】** 自然科学系実験を担当する大学・高校教員、ハテナソンに興味のある教育関係者

**【講師】** 佐藤賢一(京都産業大学 総合生命科学部・教授、ハテナソン共創ラボ・理事長)

## 【内容(予定)】

- ・質問づくりメソッド QFT (Question Formulation Technique) の来歴と概要  
：アメリカで開発された QFT の来歴、ねらい、概要などを紹介します。
- ・QFT を使ったハテナソン授業の体験ワークショップ  
：あるテーマ (質問の焦点) のもとで学習者の立場でハテナソンを体験して頂きます。
- ・生命科学系専門科目 (実験・実習、学部・大学院講義等) での応用例  
：京都産業大学総合生命科学部の学部・大学院での実践事例を紹介します。
- ・QFT を使ったハテナソン授業の設計と実践演習  
：質問の焦点のデザイン、ハテナソン授業のファシリテーションについて、じっくりと学習者が実践演習するレベルへの落とし込みを行います。

## 【参加申込】 <http://www.artsci.kyushu-u.ac.jp/~cfde/form/#form20180622>

ウェブサイト内の申込フォーマットにてお申し込みください。

【締切】 6月20日(水)17:00 (ただし、定員に達し次第、受付を終了します。)

【注意】当日は報告書等利用のための写真・動画撮影を行います。予め、ご承知おき下さい。

【その他】(九州大学伊都キャンパスは移転中のため)駐車場のスペースが限られておりますので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

## 【問い合わせ先】

九州大学 基幹教育院 次世代型大学教育開発センター

Tel:092-802-6070 Mail:kyoten★artsci.kyushu-u.ac.jp(★を@に置き換えて下さい。)

(タイトルに【6/22 ハテナソン】と記載して頂けると幸いです。)

\*平成28年7月に、九州大学基幹教育院は「教育関係共同利用拠点」として文部科学省から認定され、その実施組織として「次世代型大学教育開発センター」を設置いたしました。教育関係共同利用拠点とは、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進するものです。

次世代型大学教育開発センター ウェブサイト:<http://www.artsci.kyushu-u.ac.jp/~cfde/>

以上